

第27回

(株)山陰合同銀行  
ごうぎんエナジー(株)(前編)

(株)山陰合同銀行 経営企画部 サステナビリティ推進グループ グループ長 小豆澤 剛氏  
ごうぎんエナジー(株) 代表取締役社長 安喰 哲哉氏  
聞き手 WWFジャパン 環境・エネルギー専門ディレクター 小西 雅子

## 地方銀行が再エネ事業に取り組む意味 地域課題の解決に実働をもって

2021年の銀行法改正以降、金融機関でも地域資源を活用した再エネ事業への参入が増えている。地方銀行では、顧客とのエンゲージメント（深い関わりや関係性）において、これまで培ってきた専門知見と地域住民や企業との信頼関係が生かされる伸びしろの大きい領域だ。山陰地域に地盤を持つ(株)山陰合同銀行の挑戦の過程をひも解いてみたい。

### 地産再エネで地域内経済の循環を

**小西** エネルギー事業へ挑戦される背景となった銀行法の改正について教えていただけますか。

**小豆澤** 銀行業の業法を定めた銀行法は2021年5月の改正で、業務範囲規制と出資規制の見直しが行われました。規制緩和によって、金融機関の業務領域が拡がり、地方創生など持続可能な社会構築に資する業務を行う子会

社の設立が可能になったことで、エネルギーを扱う子会社・関連会社設立の動きの後押しともなりました。

**小西** 地域経済の活発化は国が成長する因子です。自ずと内外の期待感も高まりますね。

**小豆澤** 営業地盤の山陰地域は少子・高齢化が深刻となっており、産業基盤の強化も必要です。弊行は、鳥取県と島根県の指定金融機関を務めさせていただいておりますが、両県の持続的な発展は我々自身の課題でもあり、強い使命感をもって解決に取り組んでいます。そして、地域・お客様の課題解決を通じて、地域、お客様、そして弊行がともに持続的に成長していくためには、行員一人一人が一層付加価値の高いサービスを提供できる能力を身に付ける必要があると考えています。

ごうぎんエナジー(株)の設立も、地産再エネによって地域内経済の循環を拡大させ、地域課題の解決に取り組んでいこうというものでした。

**小西** 金融機関として全国初の取り組みですから相当な重圧があったと思います。

**安喰** 当時、私は山陰合同銀行の役員として、ごうぎんエナジー(株)の設立に関わっていました。設立当初は前例も無く、まさに五里霧中。単にグリーンインフラを整備するだけではなく、地域経済エコシステムの構築へ結び付けることが課題だったのです。区市町村や地元企業様とともに、私たちが発電事業者として地域の担い手になって率先して事業展開しようと考えました。



小西 雅子氏

## 地域間の競争力強化にも

**小西** 新規領域の開拓を進める上で再生可能エネルギー事業に着目されたのはなぜですか。

**安喰** 2019年5月に公表した弊行のサステナビリティ宣言では、SDGsの趣旨に賛同し、地域の課題解決に取り組むことで持続可能な地域社会の実現をめざすことを明記しています。ただ、今の延長線上では限界もあると考えられました。

再エネに着目したのは、目立った課題があったからです。2012年にFITが制度化されて以降、メガソーラーは山陰地域にも増えました。再エネ発電事業が活性化した一方で、県外資本による開発が多く、経済的側面から地域内へ還元されていないことに危惧を抱いていたのです。「地域でつくったものは地域で使われてこそ」という思いがきっかけとなりました。

**小豆澤** 本格的な脱炭素社会を迎える上で、自らクリーンな電力インフラの担い手になることは、地域間の競争力を高めていくことにもつながります。長期的な目線で見ても、再エネに取り組むべき理由がありました。

**小西** データセンターのように再エネを多く求める事業者が増加することも考えられそうです。

**安喰** 再エネの需要は二つの方向性があると思っています。

まずは、地域の指定金融機関として地域でのコミットをいかに果たしていくか。脱炭素先行地域に象徴されるように、私どもは地域ごと、フィールドごとに数多くの市町村と協力させていただいており、発電事業者として必要な再エネを地域に供給していく役割があると思っています。もう一つは、お取引先です。1件1件の顧客ニーズに応じて、さまざまな供給手法で再エネを届けること。データセンターなどは確かに多くの再エネを必要とされると思いますが、自社でされることも多いと考えられます。地元のお取引先に軸足を置いた取り組みに注力していきたいですね。

ごうぎんエナジーの設立にあたり、銀行を通してお取引先の再エネの情報収集を行った



小豆澤 剛氏



安喰 哲哉氏

ところ、半年程の間に500件を超える情報が届きました。事業性を検証し、丁寧に対応しています。グループ内や地域内で再エネ開発を手がけられる複数の関連事業者様などとも連携し、高圧から低圧に至る再エネ開発を中心に引き受けています。(次号に続く) 

収録日：2025年4月7日

### 取材後記

再エネの躍進は地元にも便益がもたらされてこそ！ そこで活躍するのが地域を知り尽くした地方銀行です。銀行法の改正とともに、いち早く再エネの子会社を設立した山陰合同銀行のごうぎんエナジーは、“地域でつくられ、地域で使われる”仕組みづくりに邁進されています。並々ならぬ思いと、あくまでも地域第一の姿勢に胸が熱くなりました。(小西雅子)



小西 雅子(こにし まさこ)  
国連の気候変動会議などでの国際交渉や、国内の気候変動・エネルギー政策提言に従事。温暖化をめぐる経済動向や世界の温暖化対策にも精通する。気象予報士、博士(公共政策学)。昭和女子大学特命教授。